参考資料2

令和６年度　第２回屋久島世界自然遺産地域科学委員会

議事要旨

日時：令和７年２月 14 日（金）9:00～12:00

場所：宝山ホール３階　第６会議室

■議事（1）前回会議の議論の整理について

資料1（環境省、林野庁、鹿児島県、屋久島町）

・質疑なし

■議事（2）令和6年度世界遺産地域モニタリング調査結果（概要）

資料2－1（環境省）

・山岳ビジョンでは有人化は前提としないことで議論してきた経緯があるが、避難小屋の有人化については具体的な試行内容やモニタリング体制について具体的に示してほしい。（土屋委員）

・山岳ビジョンではで策定した内容と大きく変わってきていることから、意図せずに観光客の呼び水になる可能性があることを懸念する。（柴崎委員）

→避難小屋の混雑時には地元ガイドによる利用誘導等をしていることから、有人化に向けて利用誘導等の回数をふやすことを予定。その他、避難小屋で有人化に向けたアンケート実施、協力金の周知、避難小屋利用の事前申告制を考えている。（環境省）

・西部地域のワーキンググループの検討、し尿適正化の方向性検討、公園計画の見直しに向けた検討などは口頭説明のほかに資料等の提示がないと評価が難しい。（柴崎委員）

→西部地域のワーキンググループの検討、し尿適正化の方向性検討、公園計画の見直しに向けた検討などは資料で出すことは可能だが、科学委員会でどこまで議論するのかについては検討したい。（環境省）

・島内にはし尿処理業者が３社あるが、なぜし尿を運搬処理できないのか等の課題を文章で出してもらわないと議論できない。（荒田委員）

→山岳保全利用協議会でし尿処理適正化の検討をしており、今年度の検討結果は町報と町のホームページ等で公表したいと考えている。（屋久島町）

・ヤクザルは地温計に目印で付けている赤色に反応して持ち去っていると思われる。このため、目印は白黒にしてはどうか。（荒田委員）

→参考にさせていただき、地温計の設置方法を工夫したい。（環境省）

・多くの登山利用者が利用する紀元杉から淀川登山口区間の通行止め解除の見通しはどうなのか。（八代田委員）

→令和6年の台風10号で生じた危険木を2月24～25日に処理予定としているが、雪の状況も影響するため確実にその日に実行できるかはまだ見通せない状況である。（林野庁）

・大株歩道の混雑現象は緩和されているが、空港拡張による入込変動については対策を考えているのか。（柴崎委員）

→大株歩道の利用については屋久島町のエコツーリズム推進協議会で、特定自然観光資源の利用調整ということで入込人数や方向性について議論している。（屋久島町）

資料２－２（林野庁）

・2024年は小瀬田や尾之間でも過去最高の年平均気温を記録しているが、月別のグラフも作成して、どの時期が平均気温上昇に影響しているのかをモニタリングしたほうがいい。（矢原委員長）

→ご意見を踏まえ、月別グラフを作成する。

■議事（3）令和7年度世界遺産地域モニタリング調査等結果について

資料３－１（環境省）

・国立公園の公園計画の見直しは、都道府県等の意見を聞きつつ環境省が行うことになっているが、屋久島では地域や関係者の意見を聞くことが重要であるため地域連絡会議や科学委員会で議論すべき。（土屋委員）

→公園計画の見直しには定まった手順があるが、地域連絡会議や科学委員会での意見収集も考えている。まずは現状把握を進める。（環境省）

資料３－２（林野庁）

・龍神杉に通じる神之川林道は修復時期が不明であるため、龍神杉の樹勢診断調査は困難だと思われる。（荒田委員）

→217 支線を使って龍神杉へのアクセスは可能であると考えている。日帰りの調査が困難な場合は、高塚管理棟を利用して調査を実施してもらいたいと考えている。（林野庁）

■議事（4）令和6年度第2回ヤクシカWGの結果概要報告

資料4（矢原委員長）

・前回の会議では令和５年度の推定頭数から増加に反転しているとされたが、令和６年は減少しているとの見解だが、判断するのはまだ早いのではないか。中長期的な視点で判断したほうがいいのではないか。（柴崎委員）

→数値的には減少しているが、推定個体数自体が減った可能性があるということではない。（矢原委員長）

・令和４年と５年の推定頭数のいずれかの信憑性に疑問がある。捕獲数は減少しているので推定個体数は増加している可能性があるので捕獲を増やすべき。（松田委員）

・山岳部の河川界区分３では継続して捕獲はないが推定個体数は減少している。これは山岳部から麓に移動していることが考えられる。一方、島全体で自然増加率が下がっている可能性も考えられる。（松田委員）

■議事（5）屋久島世界遺産地域モニタリング計画の改定について

スギ天然林、その他景観

・スギ天然林の保護・管理に関するデータの取得方法については、国際航業の航空レーザーや衛星画像の活用を活用してはどうか。（寺岡委員）

・ヤクスギ天然林の調査プロットは多く、調査には多大な労力がかかる。九州大学と九州森林管理局が設置していたプロットが５箇所ぐらいあると思うので、それを活用してはどうか。（寺岡委員）

→５固定試験地については、５大学と九州森林管理局が連携協力の協定により、琉球大学が中心となり実施されているが、予算の都合もあり順調には実施していない状態にある。活用等については、分析評価を行い提供することは可能であると聞いている。（林野庁）

・ヤクスギ天然林のモニタリングデータのオープン化は考えているのか。（寺岡委員）

→現在、公表はしていないが、ご意見を踏まえて公表化を検討したい。（環境省）

参考資料2

希少種・固有種等

・沿岸域の生物多様性は評価基準が「調査されていること」になっているが保全対策の活用につながっているという文言を入れて「沿岸域の生物多様性の状況が把握され、保全対策に役立てられていること」などの書きぶりのほうがいいかと思う。（矢原委員長）

湿原

・「大きな変化がないか監視する」ことが目的で、「自然の遷移に委ねられる」のが目標になる。ここに関しては、「現状把握されていること」という評価基準もやむを得ないが、表現の工夫があったほうがいい。（矢原委員長）

利用

・し尿の運搬については、運搬されたし尿の量や労働投入量についての記録が重要であり、将来的な運搬方法の変化をモニタリングする上で役立つので追加すべき。（柴崎委員）

→現時点のデータが山岳保全協議会のホームページに掲載されており、それを活用できる。ただ、運搬量は把握しているがそれ以外については確認が必要。（環境省、屋久島町）

・指標や判断基準、実施について決まっていない部分が多いため、検討の場をつくって議論してくべき。検討の場には第三者的な見方ができる研究者を入れたほうがよい。（土屋委員）

→ご指摘のとおり検討の場は必要と考えている。委員から助言や協力を得つつ進め方を決めたい。（環境省）

全体（評価基準）

・資料５－２の回答等（案）には評価基準レベル①②③があるが、①と②は統合したらどうか。（矢原委員長）

・一方、評価基準はレベルに差があるため、モニタリング項目ごとに評価基準レベル①②③と記載すべき。（土屋委員）

・評価基準レベルは①と②を統合する、もしくは①②③と分けるといった複数の考え方がある。（松田委員）

■議事（6）屋久島湿原保全対策について

資料6－1（環境省）

・質疑なし

資料6－2（林野庁）

・木道よりも上流へ堰を設置したことによる効果を説明してほしい。（柴崎委員）

→祠方向への水の流れを分散するため、堰の設置や木道下の枝条撤去をしているが、降雨がないときには大きく流水分散はしていない。木道付け替えまでの応急的な対策として実施している。（林野庁）

■議事（7）その他

資料7（林野庁）

・基本的にそのままの状態で現地に保存するとはどういうことなのか。（松田委員）

→そのままの状態で置いておき、風化したら風化したままにする。（林野庁）

・観光客への看板設置等による解説はどこまで進んでいるのか。（柴崎委員）

→現在、設置しているがお披露目は、歩道等が完成した後となる。倒れた経緯などを提示し、ドローン撮影の写真等を入れている。その他の看板設置は来年度に行う計画。看板には、森林環境教育として簡単な説明分を入れることを考えている。（林野庁）

委員の若返り

・現役の先生は多忙であり社会貢献する機会が少ない。また、２月は更に忙しさが増すことを踏まえて人選や事務局によるサポート体制を考えてもらいたい。（矢原委員長、松田委員、土屋委員）

・夏場の開催は参加可能であるが、２月は多忙のため参加が困難。開催時期を２月より後半での開催を希望する。（柴崎委員）

→難しい問題と認識している。今後は個別に相談させてもらいながら進めたい。（林野庁）